

研究課題名：てんかん原病変とてんかん原性領域の病理学的検討

研究責任者：広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 准教授 飯田 幸治

研究期間：倫理委員会承認後～2025年12月31日

研究対象者

2024年12月31日までに広島大学病院脳神経外科において難治性てんかんに対しててんかん焦点切除術が行われた患者さんを対象とします。

意義・目的

てんかん患者さんは約100人に1人といわれ決して稀な疾患ではありません。そのうちの約7-8割は抗てんかん薬による治療で発作のコントロールが可能ですが、残りの約2-3割は多剤の抗てんかん薬でも発作がコントロールできない薬物抵抗性てんかん、いわゆる難治性てんかんです。これらのてんかんの中で、典型的な内側側頭葉てんかんでは、海馬を切除すればきわめて高い確率で発作消失が得られます。原因となっている海馬は、病理学的には海馬硬化と診断されますが、それを間接的に示す術前の発作症状や画像所見などの診断基準や手術方法はほぼ確立されています。一方で、海馬が原因となっていない側頭葉外てんかんでは、発作症状や病歴、画像診断などの臨床所見を組み合わせても切除すべき焦点の特定が困難であったり、切除したてんかん焦点の病理学的診断があいまいで、しっかりととした結果が得られないこともあります。てんかん病理の診断基準がいまだに統一されていないことがその一因となっています。そのため、確実な焦点切除を行うためには、臨床所見および治療予後を的確な病理学的診断結果と対比させる必要があります。本研究では、広島大学てんかん診療チームおよび新潟大学の病理診断部が共同しててんかん焦点（てんかん原病変とその周囲に存在するてんかん原性領域）の病理学的検討を行います。また、症例を蓄積し、様々な病理学的所見と臨床所見や治療予後との相関を検討することで、てんかん焦点の診断精度をより高めていくことに役立てます。これにより的確な切除範囲決定などの治療方針の立案や治療成績の向上を得ることを目指します。

方法

難治性てんかんに対する治療のため焦点切除術を行った際には、いわゆる焦点部位（てんかん原病変とその周辺のてんかん原性領域）が病理組織として得られます。病理組織の未染標本を作成し、新潟大学脳研究所病理分野に送り、病理診断を依頼します。広島大学にある臨床所見および治療予後と得られた病理学的診断結果との相関を検討することで、焦点診断のより高い精度を得ることを目指します。

共同研究機関

新潟大学脳研究所 生命科学リソース研究センター 脳疾患標本資源解析学

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 准教授 飯田 幸治

個人情報の保護について

調査内容につきましてはプライバシー保護に十分留意しています。新潟大学へ病理標本を送る際、年齢、臨床経過、手術所見を添えますが、氏名は登録番号に置き換えられますので個人名が特定できることはありません。成果発表の際に情報が個人を特定できる形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をおかけすることはありません。研究に資料を提供たくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても不利益が生じることはありません。

問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

電話 082-257-5481

広島大学脳神経外科 香川 幸太